

福井県勝山市

国史跡

白山平泉寺

hakusan heisenji shrine national historic site

まほろばなし

この苔のじゅうたんは、
かつて日本で有数の
宗教都市として賑わった町が、
静かに時を刻んできたのを
見守ってきたのでしょね。

人々に恵みの水をもたらす白
山は、古くから信仰の対象でし
た。その白山信仰の越前での拠
点として、養老元年(717)に
泰澄によって開かれたと言われ
ているのが白山平泉寺です。

一帯は、最盛期の戦国時代に
は8000人も僧兵がいたと
伝えられ、当時の日本では最大
規模の宗教都市となり繁栄しま

す。しかし、天正2年(1574)
に越前一向一揆勢に攻められ、
全山焼失しました。

以降、現代まで静かに時を重
ねてきました。平成になって発
掘調査が始まると、数々の石畳
や石垣、坊院跡(僧侶の住居跡)
が発見され、かつて賑わった巨
大な中世宗教都市の姿を、今の
私たちに伝えてくれています。

白山平泉寺旧境内

「苔寺」とも呼ばれる白山平泉寺。境内は一面に緑のじゅうたんが敷かれたように美しい。白山国立公園に含まれ、参道は「日本の道100選」にも選ばれている。



参道にドンと佇む結界石。
ここから先は神様の場所。
そう言われると、
景色が違って見えませんか？

2つの岩は、広大な白山平泉寺にある結界のひとつ。いくつかの結界を抜けることに身が清められていくとされています。境内へ続く石畳は九頭竜川の河原石を使い、約1000年前に整備されたものと考えられています。

旧参道(牛岩・馬岩)

左が「牛岩」、右が「馬岩」。真夜中に願掛けする「丑の刻参り」では、この岩が牛と馬になり道を迷ったという。恐れて戻れば願いは叶わず、進めば成就したと伝えられている。

一の鳥居から続く石階段。
幾千もの人々が通った道は、
日本の歴史が通ってきた
まさに現場だったわけです。

杉木立と苔が美しく、神秘的な霧閉気の参道。木曾義仲が戦勝祈願をしたり、頼朝に追われ奥州へと向かう義経と弁慶が立ち寄ったり。正体を隠した義経一行を、当時の長吏(寺の長)はわざと見逃したそうです。

一の鳥居から 続く参道

社務所には、室町時代に作庭された回遊式枯山水庭園で国の名勝である「田玄成院庭園」があり、見学することができる(見学科50円)



泰澄さんが訪れた頃と
変わらず渾々と湧き出る水。
この泉が「平泉寺」という
名前の由来なんです。

養老元年(717)、泰澄が白
山への道中に発見した泉。現れ
た女神に、白山へと登ってくる
ようにお告げを受けました。東
側の三又に分かれた杉は、泰澄
が植えたものと伝えられている
御神木です。

御手洗池 (みたらしいけ)

御神木は幹が途中から3つに
分かれ、白山三山(御前峰・
大汝峰・別山)をかたどる形と
なっている。近くには鳥居の
礎石跡も見ることができる





ようやく一％の遺跡が
掘り起こされました。
まだ眠る歴史ロマンを
想像してみてください。

白山平泉寺の発掘調査が始まったのは平成になってから。以来25年間で調査が終わったのは2ヘクタールになりますが、全体の規模は200ヘクタール。まだまだこれからもさまざまな歴史を教えてくれるはずです。

発掘された 中世の石畳道

河原石を使った石畳道は中世のものとしては国内最大規模。境内の道路の大半は石畳道で、石組みの側溝など、技術的にも当時の日本の最先端だったと考えられている



御前峰御本社

白山の主峰である御前峰の神を祀り、見事な昇り龍と降り龍が軒を支えている。現在の建物は、寛政7年(1795)に、12代福井藩主の松平重富が寄進したもの

三つの頂がある白山は
お宮さんも三つ。
境内には「三」にまつわる
エピソードも多いんです。

白山は、御前峰、大汝峰、別山と3つの頂がある山です。白山平泉寺には御前峰御本社を中心に3社あり、それぞれ神が祀られています。社はかつて破風が3つあり、3人の神が一体になったことを表していたとか。

劫火の生き残り。

四五〇歳の長老は

ただ立ち尽くす私たちに

何かを語りかけてくれます。

「平泉寺7本杉」のひとつで、天正2年(1574)の全山焼失に耐えて残ったと言われている。その佇まいは、いにしえにこの地が「まほろば」(素晴らしき場所)だったことを静かに教えてくれているようです。

若宮八幡宮の大杉

発掘調査と史跡整備が進められている「南谷三千六百坊」跡の一角に残る。白山平泉寺の境内にかつてあった48の社のひとつで、古い絵図にも描かれている





いろいろな色に染まる境内は
そのたびに違った表情を見せてくれます。

「三十三間拜殿」と絵図に描かれた拜殿。
諸説あるが、その規模は巨大でした。

江戸時代の絵図(15ページ)で「三十三間拜殿」と描かれている拜殿の、礎石の一部が残っています。平泉寺の僧が一堂に会する場所だったので、かなり大きな建物だったことが分かります。

拜殿

かつての拜殿の幅は約83メートルにもなる。現存の拜殿は安政年間に建立のもの。中には絵馬(勝山市指定文化財)が奉納され、毎年元日に開帳されている

ここからは魚や肉はダメ！
覚悟して歩いたんでしょか。

昔、この坂から上は魚や肉を持ち込むことが禁じられていたことから、「精進坂」と呼ばれています。石段の石はなめらかです。わらじ履きでもすり減るくらい多くの人が歩いたのでしょ。

精進坂

現在の白山平泉寺境内への入り口となっている。登ったところにあるのが一の鳥居、その先の参道には二の鳥居がある



兄弟ゲンカの競り合いでこの大岩を動かそうとしたことにビックリです。

16世紀中頃の話。本社の石垣に使われた弟・玉泉坊による3メートルの大石に、兄・宝光院が対抗。この場所の岩を掘り起こそうとしたところで、朝倉義景が争いを収めたとされています。

謀反岩

本社の大石垣を作るため奉納する石の大きさを競った兄弟の僧。義景の命令で岩を運べなかった兄・宝光院は、その後この大岩の前で弟・玉泉坊を滅ぼす方法を企んだため、この名前がついたという

開山から焼き討ちまで八五〇年。それから現在まで四五〇年。

白山平泉寺の焼失から現在まで約四五〇年。泰澄が開き、繁栄した期間はさらに四〇〇年長かったことを思うと、長い歴史の時間の流れが少し実感でき、面白く感じられませんか？

白山平泉寺のなりたち

開山当初(平安時代)の御手洗池周辺から鎌倉時代には山の中へ施設が拡大。室町時代になると坊院をはじめとする都市計画によって整備が進められたことが分かっている



華南三彩釉陶器 筆架
筆を置く文具で、仏教でいう「須弥山」をかたどっている。国内で出土するのは珍しい



焼けた陶磁器
熱で釉薬が溶けて離れなくなっている。1574年の全山焼失の火災でのものと考えられている



石製 風炉
茶の湯を沸かす道具で笏谷石を使用。他にも茶道具が数多く出土している



白山平泉寺歴史探遊館 まほろば

白山平泉寺の総合案内施設。タッチパネルやハイビジョン映像、発掘調査で出土した遺物などで、歴史や見どころなどを紹介している。また、白山平泉寺が開かれたもととなった白山信仰についてや、これまでの発掘調査によって判明したことなども分かりやすく解説している。体験学習施設の機能も持ち、毎月さまざまな体

験行事やイベントを開催。幅広い年代の人が訪れる平泉寺エリアの拠点としても親しまれている。

TEL.0779-87-6001

開館時間/AM9:00~PM5:00(入館はPM4:30まで)

入館料/無料

休館日/年末年始



南谷の発掘現場

「中宮白山平泉寺境内絵図」によると南谷には3600坊があったとされている。土中には400年以上前の僧侶の坊院(屋敷)跡が残っており、発掘調査が進められている。石の積み方や等間隔に作られた出入口などから、当時の日本におけるトップレベルの土木技術によって計画的にまちづくりが進められていたことが分かっている。



白山亭

精進坂前で約50年親しまれている参拝者の憩いの場。地元勝山市特産品やお土産のほか、平泉寺の食材を使う「平泉寺御膳」、手作りスイーツなどを提供。店主による観光情報もあり。

- TEL. 0779-87-0307
- 営業時間/AM9:00~PM5:00
- 定休日/年中無休



あ之蔵

平泉寺の集落景観を代表する白壁土蔵造りの誘客施設。隣接する「白山亭」と一体となって、周辺エリアの誘客拠点として利用されている。不定期で平泉寺に関する写真や絵画といった作品や、地元で使われていた昔の生活用具などを展示。

- 開館時間/不定期



と之蔵

福井を代表する名勝「東尋坊」ゆかりの坊院跡「東尋坊跡」に整備された交流と情報の発信基地。1階では観光情報や地域密着情報の発信。2階は休憩スペースとして活用している。

- TEL.0779-87-1202
- 営業時間/AM9:00~PM5:00
- 定休日/年中無休



青白磁 観音像

中国の元時代に景徳鎮で作られたもの。他にもベトナム産の陶器や日本各地の陶器も出土し、当時の貿易や流通の一端を知ることができる



鉄さい・るつぼ

鉄さいは鉄から出た不純物。坊院では金属加工をはじめ、さまざまなものづくりを行っていた

散策には観光ボランティアガイドがおすすめ!

1300年にも及ぶ白山平泉寺の歴史を、さまざまなエピソードを交えながら解説。よりディープに白山平泉寺を楽しむならぜひ。

- 案内人数/2名～ ●ガイド料/無料(交通費としてガイド1人あたり1,000円)
- 申し込み/下記へ7日前までに電話またはFAXで予約

勝山市商工観光部観光政策課

TEL.0779-88-8117

FAX.0779-88-1119



杓子・すり鉢・包丁

「へ」の字状に折れた形が中世の杓子の特徴。食器類の出土が多く、たくさんの方が住んでいたことが推測できる



錠

坊院内の倉庫跡より出土。脇にあたる脇板の部分

平泉寺散策よもやま話

① 東尋坊跡

平安時代の終わりに白山平泉寺の僧の一人であった東尋坊。その怪力で乱暴を繰り返すなどやりたい放題だった東尋坊に恨みを持つ者は多かった。僧たちは寿永元年(1182)の春の例祭の宴を九頭竜川を下った三国の安島浦で催し、酒に酔わせた東尋坊を崖から突き落とす。このことからこの断崖絶壁は東尋坊と呼ばれるようになり、今では福井を代表する観光スポットに。ちなみに、東尋坊は文武両道の優れた僧侶だったという説もある。



東尋坊(坂井市三国町)

② 弁慶の足跡

室町時代に作られた泰澄の供養塔「泰澄大師廟」前の敷石にある、足の形をしたくぼみか弁慶の足跡とされている。弁慶が白山平泉寺の鐘を鳴らし、音が鳴りやむまでに鳴鹿(永平寺町)まで走ったという言い伝えから、この足跡を踏むと走るのが速くなるといういわれがある。

③ 旧玄成院庭園

天正2年(1574)に一向一揆との戦いに敗れ、全山が焼失した白山平泉寺。玄成院は江戸時代の中心的な坊院で、白山平泉寺の復興に力を尽くした。現在は社務所になっており、庭園は室町幕府の管領であった細川高国によるものと伝えられている。

④ 礎石を包む杉

御手洗池正面の階段を上った場所にある、かつてあった鳥居の礎石。その石に覆いかぶさるように成長した杉からは、この地がひっそりと長い時間を積み重ねてきたことを実感できる。



⑤ 神と仏の交差点

二の鳥居から本社へと向かう東西の参道(神の道)と、南大門跡から講堂跡へと向かう南北の参道(仏の道)が交差するポイントがある。ここに立つと何か感じるかも。

⑥ 昇り龍・降り龍

本社にある2つの龍の彫刻は必見。



⑦ 三宮

白山平泉寺の一番奥に位置する社。社の奥からは、越前から白山への登拝道である「越前禅定道」が始まっている。手前に楠木正成の甥、正秀が建立した正成の墓がある。湊川の合戦に敗れ自害した正成が、当時平泉寺で修行中だった正秀の夢枕に立ったことに由来している。



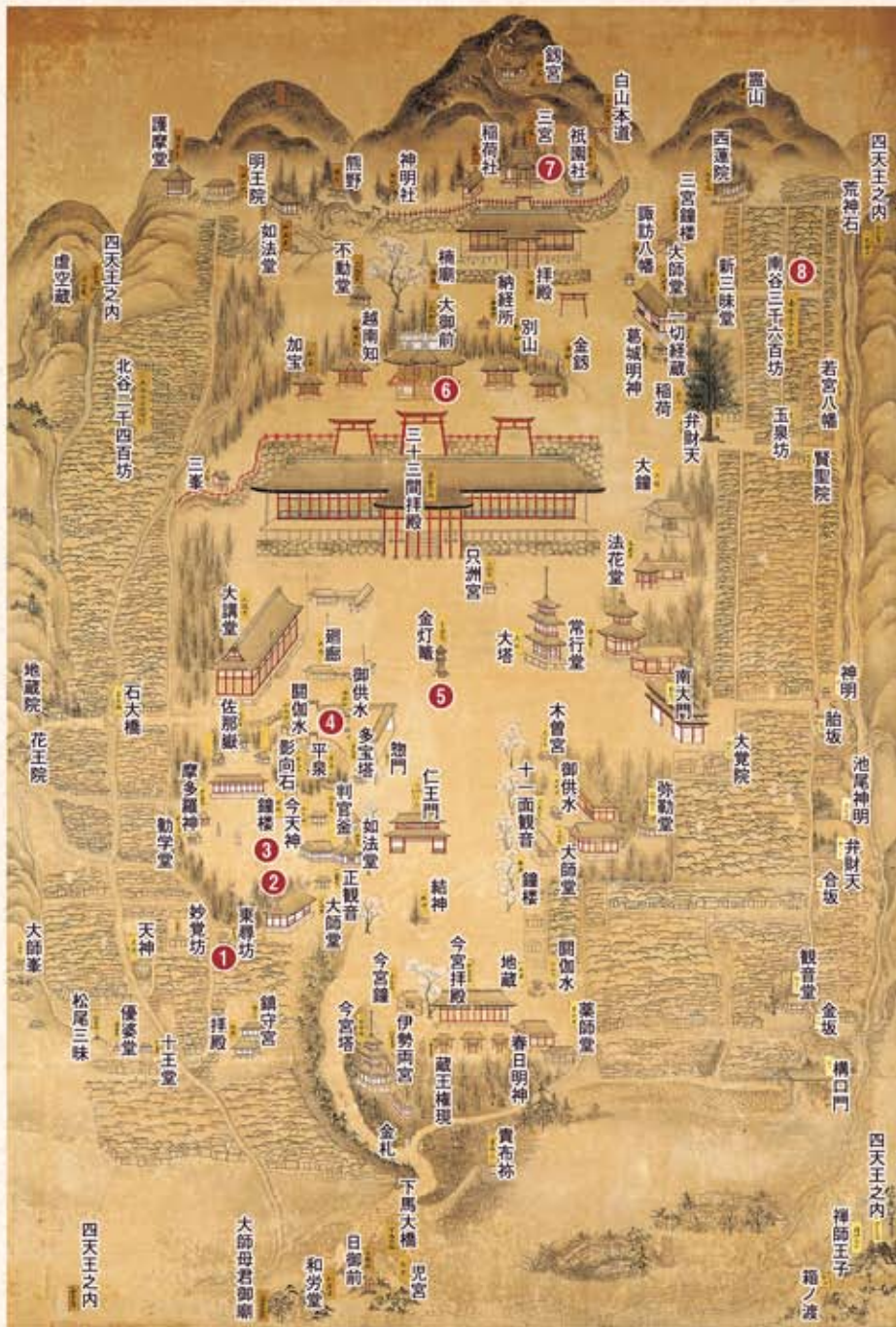
⑧ 南谷の薬医門(復元)

南谷にあった坊院の門と土塀を、発掘成果を基に再現。基礎は発掘された石垣を組み直し、壁には「荒壁塗り」という当時の技法を採用した。



「勝山」の地名

白山平泉寺と対立していた一向一揆勢が現在の御立山(通称:村岡山/勝山市村岡町)に村岡山城(むろこやまじょう)を築く。この村岡山城での戦いに力を注いだ隙を突かれて、白山平泉寺は火を放たれ焼き討ちされてしまう。戦いに勝った一向一揆勢は、戦いの場となった村岡山を「勝山」と呼ぶようになり、現在の地名の由来となっている。




「中宮白山平泉寺境内図」平泉寺白山神社蔵


現在の境内と、中世に描かれた境内図(左)を比べてみて、
位置関係を確認しながら境内を歩いてみよう。





交通案内

 **電車** JR福井駅に隣接のえちぜん鉄道福井駅から勝山永平寺線で勝山駅へ。京福バス平泉寺線で「平泉寺神社前」下車

 **自動車** 北陸自動車道「福井北 IC」経由中部縦貫自動車道「勝山 IC」から15分

白山平泉寺歴史探遊館 まほろば

〒911-0822
福井県勝山市平泉寺町平泉寺第66号2番地12
Tel.0779-87-6001 Fax.0779-87-6002
E-mail : mahoroba@city.katsuyama.lg.jp

勝山市役所 商工観光部観光政策課

〒911-8501
福井県勝山市元町1丁目1番1号
Tel.0779-88-1111 Fax.0779-88-1119
E-mail : kankou@city.katsuyama.lg.jp